

県史談会 平成30年5月13日(日) 史跡めぐり

横浜貿易新報社・県下名勝史跡45佳撰当選記念碑

「白瀧不動尊」(40位 37,666票)と

「妙香寺」(2位 275,770票)を訪ねる

【担当】荻田 豊

【見学箇所と参考資料など】

1. 根岸湾埋立ての記念碑と磯子区の海岸線の変化／根岸湾の埋立進行図（根岸駅前）

昔この辺りは自然美あふれる海岸で、漁やのり養殖が行われていた。明治期から幾度かの埋立工事を経て現在の海岸線は随分と沖へ後退し、海は遠くなる。根岸湾埋立ての記念碑は、漁場を手放した当時の人たちの思いを刻む。

埋立て進行図には、現在地がまだ湾内にある明治5年(1882)、市電が載る大正10年(1921)、京急が載る昭和22年(1947)、その15年後の昭和37年(1962)、国鉄が載る昭和41年(1966)、市電が無くなる昭和55年(1980)の海岸の変化などが描かれている。

2. 根岸八幡神社

主 神：八幡皇大神（はちまんすめのおおかみ）

合祀神：天照皇大神・宇佐八幡大神・大山祇大神

今から1400年ほど前、根岸の沖合に黒光りした神像が亀型の台座に立ち、五尺の枯れ木の根に乗って着岸した。村びとはこの神像を八幡川の下流の東岸、現在の滝頭八幡が鎮座する場所にお宮を建てて安置したのが始まりで、以後誰いうとなく八幡宮と尊称し、「根岸村の鎮守」として崇敬した。

慶安4年(1651)の検地の際、鎮座地が滝頭村となってから約100年後、明和3年(1766)に現在地に遷座、その後明治41年に三社を合祀して今日に至る。

社叢林（神奈川県指定天然記念物）

社叢林は、スダジイ、タブ、カクレミノ、ヤブツバキ、シロダモ、モチなどの常緑広葉樹で覆われた自然林であることから、天然記念物の指定を受け、「かながわの美林五十選」に挙げられている。

3. 根岸なつかし公園 旧柳下邸（横浜市指定有形文化財）

洋館と和館一体となった大正時代の近代和風住宅で、大正～昭和初期の暮しの雰囲気体験できる。

柳下家は、明治初頭より横浜でも有数な「銅鉄引取商」として弁天通に「鴨居屋」の屋号で店を構え金属の輸入業を営んでいた。

なお、「概要と歴史」と「見どころ紹介」が載るパンフレット（A3両面）は受付で100円で販売している。

4. 白滝不動尊（第40位）

根岸にある宝積寺の境外仏堂で、本尊の不動明王立像は『武蔵国風土記稿』において「元禄3年、海中より出現の像にて、智証大師の作と云う」などと伝えられ、他にも境内の崖の中段にあった井戸の中から出現した、などと云う伝説がある。

古くは、その霊験あらたかなるをもって、遠く房総や三浦の漁民も船でやって来て参詣したといい、明治中頃まで周辺の街道には黄金屋・角海老・石崎・瀧の屋・原木などといった茶亭や旅籠が軒を並べ参詣客で大いに賑わったという。

関東大震災では、周辺の住宅には被害がほとんど無かったのに対し、白滝不動だけが全壊したことで、町の人々はお不動さんが身代わりになったと信じたといい、震災後の大正14年には再建されたという。

①「白滝不動尊」の由来碑（碑文参照・上記とほぼ同じ）

② 根岸の榊神輿（解説板あり）

横浜市指定無形文化財の根岸の榊神輿は、根岸八幡神社の祭礼に際し、根岸町で3年に一度行われる、榊で製作した神輿を中心とした祭礼行事で、榊祭りと呼ばれ、白滝不動尊から始まったと伝えられている。

③ 不動坂

白滝不動尊前から坂上の根岸森林公園方面まで続く。

この坂は、開港後に居留地の外国人が安全に歩けるよう幕府が整備し

た元町・山手・本牧・根岸方面を巡る外国人遊歩道の一部をなした。根岸湾の美しい海岸線を望む場所として好まれ、坂に沿って外国人の高級建物が建てられたという。

ちなみに、坂の上、旭台にユーミンが「海を見ていた午後」で歌った「山手のドルフィン」のカフェ&レストラン・ドルフィンがある。

5. 根岸競馬記念公苑・馬の博物館

1860年代、横浜で始まった洋式競馬は、慶応2年(1866)完成した根岸競馬場に拠点を定め、翌年から昭和17年(1942)に幕を下ろすまで76年間競馬が行われた。

1周972間(1764m)、幅員13間(28.8m)で、横浜農林省賞典四歳呼馬(のちの皐月賞)や帝室御賞典等の大レースが行われ、明治天皇の行幸も13回を数えた。

戦争の激化に伴い昭和17年に競馬開催は中止に追い込まれ、「軍港が一望できるとの理由と、作戦上必要な施設である」として海軍省に接收され、機密文書の印刷工場などが設けられた。

戦後は、米軍に接收され、広大な土地は米軍専用の住宅やゴルフ場などとして利用、昭和44年に接收の一部が解除、昭和52年に敷地の大部分が根岸森林公園として整備された。

森林公園の奥に見える3つの塔は一等馬見所で、昭和4年に丸ビルでお馴染みの米国人建築家のJ・Hモーガンにより設計された。

6. 市電車庫跡(麦田町バス停近くの碑)

〔麦田車庫年表〕

明治44年12月26日 横浜電気鉄道㈱の桜道下引込線として発足

大正10年4月1日 横浜市電車となる

昭和3年3月3日 引込線から市電40両収容の車庫となる

昭和3年10月15日 桜道下から麦田と改称

昭和45年7月1日 59年間市民に親しまれた麦田車庫廃止

7. 妙香寺(第2位)

寺記によれば、弘仁5年(814)真言宗の開祖弘法大師(空海)の創立とされ、本牧山東海寺と称し、その後日蓮宗の教化で日蓮宗に改宗、東海

寺から連昌山妙香寺となり、さらに現在の本牧山妙香寺になる。大正12年(1923)9月1日の関東大震災、昭和2年(1927)1月10日の失火、また昭和20年(1945)5月29日の第二次世界大戦横浜空襲により度重なる全山焼失となるが、現在は全山復興する。

①「国歌君が代由緒地」の碑（入口）

②「日本吹奏楽発祥の地」碑（境内）

明治2年(1869)、鹿児島湾に停泊していたイギリスの軍艦から聞こえる軍楽隊の音楽に薩摩藩主・島津久光が感銘を受け、薩摩藩に軍楽隊をつくることを決意したことから、日本の吹奏楽の歴史が始まる。

軍楽隊とは軍隊に属する音楽隊。野外で演奏することが多いため、管楽器と打楽器を中心にした吹奏楽の編成を持ち、式典や行事などでマーチを中心に幅広い音楽を演奏する。

薩摩藩は、指導をイギリス軍に要請。そして、指導者に選ばれたのは、横浜に駐留していたイギリス第十連隊第一大隊のジョン・ウィリアム・フェントン軍楽長だった。

薩摩藩は藩士32名を「薩摩藩洋楽伝習生」として横浜に派遣することになり、イギリス軍の駐留地に近い妙香寺が、薩摩洋楽伝習生たちの寝泊まりと練習の場となった。

練習を重ねた洋楽伝習生は翌明治3年、フェントンの指揮のもと、妙香寺の隣にある山手公園の演奏会に出演。

当時、横浜に居住する外国人向け新聞の『ザ・ファー・イースト』は、妙香寺境内に整列した薩摩藩洋楽伝習生の写真を、「サツマバンド」として紹介した。

サツマバンドについてこの新聞は、楽譜の読み書きもすでにマスターし、短期間でマーチを演奏できるほどになったとその才能をほめ、容貌もすぐれていて利発そうだと記している。

③「国歌君ヶ代発祥の地」碑（境内）

薩摩藩洋楽伝習生への指導が始まる時、フェントンは日本に国歌があるなら、その作譜から指導を始めようと提言したが、その時点で日本には国歌がなかった。

薩摩藩洋楽伝習生の颯川吉次郎が、当時薩摩藩の砲兵隊長であった大山巖にそれを伝えたことから、「君が代」が誕生したと伝わっている。

大山巖は西郷隆盛の従兄弟で明治の元老。折しもこの頃、イギリスの王子・エジンバラ公の来日があり、儀礼に演奏する日本の国歌の必要性が高まっていた。

国歌という概念に初めて触れた大山巖を代表とする薩摩藩士達は、日本にも国歌をつくろうと検討を始め、古今和歌集に記載され、おめでたい歌として、小唄、長唄から浄瑠璃まで幅広く親しまれている「君が代」を歌詞として選ぶ。

「君が代」は薩摩琵琶歌にもあり、それが大山巖の愛唱歌だったと伝えられている。

この歌詞に合わせた作曲を依頼されたフェントンは、賛美歌風のメロディを作成。明治3年には、この「君が代」が初めて演奏された。

しかし、この初代「君が代」は美しいメロディだが歌詞と合わず歌いにくかったこと、西洋音楽がまだ一般的でなかったことから作曲し直されることとなる。

新しい曲は宮内省により雅楽調に作曲し直され、フェントンの後任であるドイツ人のエッケルトが吹奏楽用に編曲を行った。これが現在の「君が代」である。

フェントンが作曲した「君が代」はこうして姿を消した。

なお、妙香寺では毎年体育の日に日本吹奏楽指導者協会主催でフェントン作曲の「君が代」の演奏会を行っている。この「君が代」は横浜山手テニス発祥記念館で聴くことができる。

※別添の読売新聞書評(4月22日付)参照

8. 山手公園 (パンフレットあり)

横浜居住の外国人の間には山手方面に専用の遊園地を望む声があり、慶応2年(1866)に外国公使団との間で結ばれた「横浜居留地改造及競馬場基地等約書」(慶応約書)によって、その要求が幕府に認められた。しかし、その中の公園計画は具体化しないで終わる。

明治2年(1869)に居留民代表から改めて要求が出されたのに対して、

日本政府は山手妙香寺付近の土地 6 千坪を、慶応約書で約束した土地の代替地として貸与した。公園の造成は居留民が行い、明治 3 年 5 月 6 日 (1870 年 6 月 4 日) に開園したのが山手公園である。

明治 11 年 (1878) からは、居留外国人女性で組織されるレディズ・ローンテニス・アンド・クローケー・クラブ (横浜婦女弄鞠社) が管理することとなり、クラブハウスとコートがここに設けられた。

① あずまや

薩摩藩士たちが、明治 3 年 (1870) にここで英国軍楽隊のフェントン中尉作曲の「君が代」を初めて演奏した。

② 国指定名勝「山手公園」の碑

平成 16 年 2 月 27 日指定、平成 16 年 3 月 31 日建設

③ 山手公園 120 周年記念碑 (平成 2 年 6 月)

④ 旧山手 68 番館 (現在は公園管理センター)

昭和 9 年、震災後に外国人向け貸家の一つとして建てられ、かつては山手 68 番 (フェリス女学院前の代官坂上) にあり、昭和 61 年に移築された。

⑤ 横浜山手テニス発祥記念館 (パンフレットあり)

ラケット・ボールなどの移り変わり、初期の女性のテニスの服装など展示されています。

なお、館内で初代「君が代」を聴くことができる。

⑥ 日本庭球発祥之地の碑

昭和 53 年 (1978) に日本初のテニスクラブであるレディズ・ローンテニス・アンド・クローケー・クラブ設立 100 周年を記念して建立される。

⑦ 近代下水道記念碑

平成 8 年 5 月建立のこの碑の碑文には、「旧横浜外国人居留地 (関内・山手) では、近代的な下水道が明治 10 年代までに整備されました。この山手公園沿いの桜道などには当時の石造下水管 (内法幅 0.6m、高さ約 0.8m の防州石造の暗渠約 130m) とこの碑の左側にはブラブ溝 (石造側溝) が、100 年以上経た今日においても使われています。この碑は横浜市の下水管の総延長が、平成 7 年 11 月に 1 万 km に達したことを記念して、この地に建立するものです。」とある。